

21年産を振り返る

品種により長雨・日照不足の影響に差が



今年産の刈り取りも、県内の一部の地域を除いてほぼ終わったことと思われま。残念ながら全域の収量・品質の状況については把握していませんが、それぞれの生産者の皆さんの結果はいかがだったでしょうか。当地域では先月号で懸念していたことが当たってしまいました。品質は3年連続で極めて良かったものの、収量は残念ながら平年作まで届かなかったようです。

我が家のメインのコシヒカリが、JAS栽培も慣行栽培も480kgで近年では最悪の収量でした。肩米が反当60kg以上も獲れてしまいました。いずれも一部ですが廻り刈りが出来ないほど倒伏してしまいました。当地域ではコシヒカリはことごとく倒伏してしまいました。こしいぶきが600kg、特別栽培の越淡麗が490kgとようやく平年作を確保できました。この2品種はまったく直立不動で倒伏の気配すら見えませんでした。原因は7月から8月にかけての長雨だと言われていますが、それでは長雨が稲体にもどのような影響を及ぼしたのでしょうか。もっとも幹長の伸びやすい幼穂形成期の降雨による日照不足で幹長が伸び、柔らかくなつてしまったのが倒伏の原因であり、倒伏によって登熟歩合が低下してしまつたのではないかと思われま。幸いにして出穂期以降の天候回復に助けられて一部のモミだけは充分な登熟がおこなわれたのでしよう。我が家では例年になくコシヒカリ刈取り後の稲藁の量が多く、分けつの切上りが悪くていつまでもダラダラと分けつが続いてしまつたようです。7月号でご覧いただいたように我が家のコシヒカリの分けつ最盛期の頃の茎数はけつして多くなかつたわけですから、このことは言えると思ひます。

しかし、この説明ではこしいぶきと越淡麗の説明には全く当てはまりません。こしいぶきと越淡麗は倒伏もせず、収量に比べて稲藁もまことに少ない量でした。コシヒカリと比べて、出穂時期がわずかに早いか遅いかの違いで、倒伏と収量に大きな差になつて現われたわけですね。コシヒカリと他の2品種が本来持つている基本的な性質の違いが今年の天候で極端な形で出てきたのかもしれない。いずれ専門家の皆さんが解析をして下さるのを期待するしかないでしょう。

さて、民主党による新政権が誕生して農業政策も大きな転換期を迎えるようです。来年度からコメの「個別所得保障」制度を全面導入するという方針が新聞の大見出しで報道されていま。日本農業の将来の根幹に係わるものだけにいささか性急に過ぎるのではないかとと思われま。

残念ながら新聞報道の文面だけでは、その具体的な内容について読み取ることができず、憶測の域を出ません。そのため極めて独断的で誤つた理解をしてしまつているであろうことを予めお断りした上で、敢て個人的な「感想」を述べさせていただきます。

大きく転換する政策はこれまで「一律減反」から「選択性減反」への移行が柱だと思われま。米価の維持を目的に進められてきたこれまでの減反政策で、計画生産数量が予想通りにいかず、生産過剰に伴う米価の下落と、より一層の減反面積の拡大で生産者には不公平感と閉塞感が広がりが、大規模農家も将来展望が描けない現状の制度の矛盾はもはや限界を超えていると言つて良いでしょう。

減反が強制でなくなり、選択制になれば全体の生産量が一時的に増加し、市場価格が低下して消費者にはメリットがあり、一方個別所得保障制度に加入して目標生産数量の範囲内で転作等を実施した生産者には、全国平均の生産費と市場価格の差額を補償して生産者所得を保障するというものです。生産者にとって、強制でなくそれぞれの経営規模や考え方で選択できるのは大いに期待が持てるものでしよう。しかし、主食用以外の米粉や飼料用米への誘導のための加算も検討されているようですが、水田の機能維持を名目に導入された生産者価格が半値の「加工米」との矛盾をどう解消するのでしょうか。一物二価の安い加工米を前提にして経営をおこなつてきた加工業者は加工米制度の中止や縮小がおこなわれれば大打撃を受けてしまいます。主食である米を中心に農業政策を検討するに当たつ

ては、いくつかの大事なポイントがあると思われま。長期的には現在の低い農産物の自給率を80〜90%位まで段階的に引き上げることに繋がる政策であるのか。そしてそれを安定的に担える生産者、生産者団体が農業経営できるように所得の確保に展望をもてるのか。さらにはそうした農業経営が農村集落の活性化と環境保全や省エネ、地域循環型に貢献できるものにしていけるのか。最後に諸外国との貿易摩擦等をどのように折り合いをつけていくのか等々です。

厳しい国家予算の中で極めて難度の高い課題をクリアするためには長期展望を見据えて一石二鳥、三鳥の金の使い方が必要でしょう。

マニフェストに書いてあるから、何が何でも今すぐ実行するというのも大事でしようが、腰を据えて長期展望にたつて政策検討を行い、生産者と消費者や関係者を含めて国民的な議論と合意形成が必要ではないでしようか。またしても「猫の目農政」と言われぬために。

▲内山常蔵記

再度確認を!!

入庫時のお願い

水分過多や量目不足に注意をお願いします。検査できない場合もありますので注意をお願いいたします。

玄米水分量

うるち玄米 ▶ 16.0%以下

醸造用玄米 ▶ 15.5%以下

量目

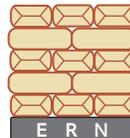
紙袋 ▶ 30.5kg以上

フレコン ▶ 1,030kg以上

22年度よりフレコンパックは角型を指定します。(底が丸く縦長のものは安定性がなく倒れる危険がある)

木製パレットは使用禁止です

木片などの異物混入、カビ等の原因になりますのでプラスチックパレットでの入庫をお願いします。預かり検査お米の場合も、平成22年度から木製パレットでの入庫は受け付けません。



先着順!!

農業用純米酢

20%_酢

1,000円

価格表

価格は年度により改訂される場合があります

1 トラック貸出

要予約

2tトラック

1日 5,000円

2 米引き取り料

時期限定(9月初~中旬)

酒米・加工米のみに限らせていただきます

30kg紙袋

75円/1袋

フレコンパック

1,700円/1袋

3 あめんぼ号(除草機)

要予約



1日 3,000円

4 水分計



1シーズン 1,000円

5 米預かり

3月~8月末迄

5月以降は低温倉庫で保管いたします
パレットを貸し出す場合、1枚50円/月となります
フレコンパックでのお預かりはいたしません(22年度より)

30kg紙袋(1ヵ月当たり)

保管料

37.5円/1袋

入庫・出庫量

40円/1袋

保険料

5円/1袋

30kg紙袋

適正な結び方をお願いします

検査証明欄にハンコを明確に押印するため、正しい荷造りをお願い致します。

